

現在のカフェテリアのほとんどの利用者は、公益大生や職員の方たちである。学食もおいしく、開放的な空間で学生や職員の方は利用しやすい空間になっているのではないかと考える。カフェテリアでは、食事をするだけでなく友達としゃべったり勉強したりで利用している人も多い。実際、私も毎日お昼ご飯を食べる際や友達との勉強で利用したりしているが、誰かと話しながら何かをするという観点ではとても利用しやすい施設になっているのではないかと考える。一方で課題は何なのか、うらやましいとは、自分もそうならよいのと思う気持ちのことである。この点から、今回は学外の人を他大学の学生に絞って考えていく。

では、他大学の学生にとってカフェテリアをうらやましいと思えるのはどのようなときであるか。カフェテリアの現在の課題をふまえて考えていく。現在のカフェテリアは、座席の数が多い一方で、机が長机であるため相席になることも多々ある。加えて、カフェテリアは、やはり食事ができる・食事をするということが大きなポイントであると考えているためその点からも考える。大学生は、忙しい人が多い。その中でも栄養を気軽に取れたり、おしゃれなものをカフェテリアで取れたりすることは学生のニーズをも満たすことに繋がると考える。加えて元々のカフェテリアという語源は、多種類の料理から利用者が自首的に組み合わせることができるということを指す。ここを満たすということも1つ課題なのではないかと考える。よって、これらの課題からくつろぎながらも自分の空間を大切にしつつ、食事に関しては流行を取り入れるということが潜在ニーズとして考えられる。

ここから考えたコンセプトは、「憩いの場へ。変化し続けるカフェテリア」である。この変化という言葉には様々な意味を含めた。まずは、現在使用しているような長机でなく、基本的に正方形の机を使用する。これを使用することで、状況によって離してグループでの空間を作ったり、くっつけてなるべく多くの人が使えたりと用途によって変化をもたせることができる。加えて、空間にも変化をもたせられる。カフェテリアの食事は、一回のビュッフェ方式と、現在も導入している券売機方式の二つを導入する。多種類の料理から自分の好きなものをもって食べるというのを週に一回ほど導入することで、学生たちもよりカフェテリアに魅力に感じるのではないかと考える。しかし、コロナ化が終息したとはいえ、このような方式に不安な人がいる可能性もあり、この方式を毎日続けるというのも負担が大きい。よって、かわらず券売機方式は続けていく。そこで、販売するものを今と変化させていく。現在販売しているホットスナックや昼食時のメニューを現在の流行を取り入れる形に変更するのである。もちろん、現在販売しているようなメニューも残しつつ、三か月に一回見直しを行ってメニューを変化させていく。今でいえば、例えばアサイーボールやブリトーなどである。これらが学食にあることは、他大学生から

すればうらやましいと思うことなのではないか。軽食関係のメニューが増えれば、昼食時以外でも利用してくれる学生などが増えるであろう。また、それらの流行に乗った内職のちょっとした変化などもカフェテリアの利用について魅力が増えるきっかけになるのではないか。例えば、一角に写真映えするスポットを設置して料理とともに写真が撮れるようにする。このこともカフェテリアの一つの話題に繋がると考える。

これらによって期待される効果としては、学外の大学生からの注目を浴びれば大学として注目をあびる機会が増える可能性があることである。SNS の普及により、学校自体の大きな宣伝のポイントになるのではないか。加えて、利用者の増加によって、カフェテリアの収益も上がり、よりよい学校運営に繋がる。学生にとってもより充実した時間を過ごせることから学習に集中できたり、学校に来る一つの楽しみが増えたりするのではないかと考える。机の移動などで空間を自由に変えられることで学生たちに合わせた空間づくりも可能になる。このような様々な変化をいたるところで行い、常に変化を続けることは、様々な効果をもたらすと考えられる。この変化には、負担が大きい部分があるが、他大学生にうらやましがられるカフェテリアになっていくのではないかと考える。

(1785 字)